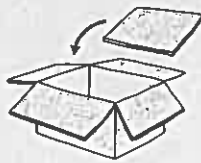
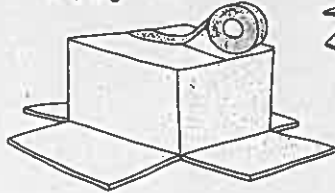


ダンボールコンポストを設置

- ① 虫の侵入を防ぐため、最小限のガムテープ(クラフト)で、ダンボールのすき間や穴を目張りする。
- ② 二重底板をしく。
- ③ 袋の中で基材を混ぜて箱に入れる。風通しの良い網目状の台にダンボールを置く。
- ④ 虫よけキャップをし、雨のあたらない風通しのよい所に設置しましょう。



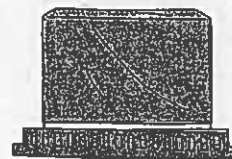
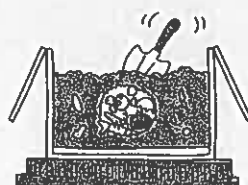
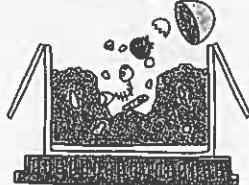
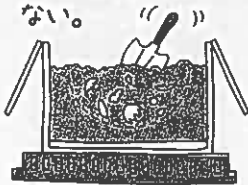
2 生ごみを投入

生ごみ投入手順

～この手順だと、ちょうど良い水分状態が保てます～

★台所から出る生ごみは貝から以外OK!
★1日800g位までならOK
★お休みしても大丈夫!また再開しよう!

- ① 前日に入れた生ごみの部分のみよくほぐす。箱の近くまで混ぜすぎない。
- ② 中心部に穴を掘って、生ごみを入れる。
- ③ 上から基材をかぶせておく。
- ④ 虫よけキャップをかぶせる。



3 堆肥にするための仕上げの作業(熟成)

※入れた生ごみの総重量約50～60kg(4人家族で約3ヶ月間)が終わりの目安。生ごみを入れた後すぐに使うと、土の中で発熱し植物を傷めてしまいます。

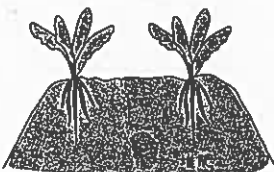
- ① 生ごみ投入を止めます。
- ② 週に1～2回箱の基材全体をしっとりする程度の水分状態になるよう水を入れ、よく混ぜます。
- ③ 約3週間くり返し、水を加えても温度の上昇がなくなったらOK!(この時、卵のカラ・骨・野菜の繊維等が残っていても大丈夫!!)



4 堆肥を利用

～でき上がった堆肥は、おむね鶏ふん程度の肥料効果あり～

★畑では、畝肥(わりひ)が効果的。(1箱で10m位の長さのうねに施肥)

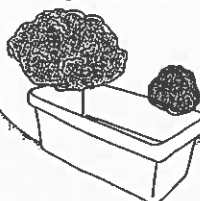


うねに溝を掘り、堆肥を入れ土をかぶせる。

混ぜ込んでしまうと雑草の栄養になってしまう

★プランターでは...

古い土 堆肥
3 : 1



★追肥には置肥で



堆肥の効果

- 団粒構造でふかふかの土に
- 栄養分の供給
- 保水・保肥力